

関西ろうさい病院 連携通信

かんろう.ねっと

2011-Apr.

特別号



(左から田中看護部長、大園副院長、林院長、上山麻酔科部長、瀧脳神経外科部長)

新手術室完成のご報告

院長 林 紀夫

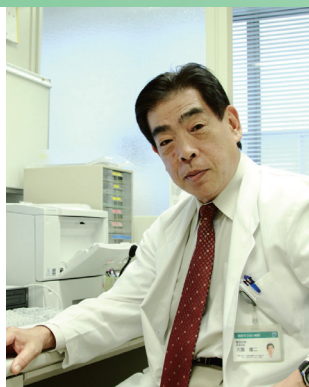
日頃、当院にいろいろご協力頂き有難うございます。平成21年末に地域医療支援病院として認められましたので、病診・病病連携をさらに進め、ご紹介いただいた患者様及び地域の先生方にご満足いただけるように、病院機能を高めてまいりました。また、地域がん診療連携拠点病院である当院は、阪神間のがん診療の中心病院として、患者様により早く適切ながん医療を提供出来るように病院の整備を行ってまいりました。

昨年は、画像検査待ちでご迷惑をおかけしていた状況を改善するために、320列のCTスキャン、3.0テスラのMRIを稼働させ、待ち時間を短縮するだけでなく、より精度の高い画像検査が可能となり、がん医療や循環器疾患の診断に大きく貢献しています。さらに、外科、整形外科などの手術予定患者様の入院待ち時間を改善するため、昨年から手術室の増設工事を行ってまいりましたが、3月末に竣工いたしました。4月より順次新しい手術室を稼働する予定で、今までの手術室9室体制に加えて新しい手術室4室の増設により、今後手術室13室体制で当院に課せられた役割である高度医療を提供させて頂きます。今回の新しい手術室は、清潔度も高く医療安全からみても優れた手術室であり、患者様にもご満足頂けるものと考えています。

今後も、安全で良質な医療を提供することにより、患者様に安心して治療を受けていただけるように職員一同努力して参りますので、ご協力の程宜しく願いいたします。

手術室の増室について (増室に至る経緯)

副院長
整形外科部長
中央手術部長
大園 健二

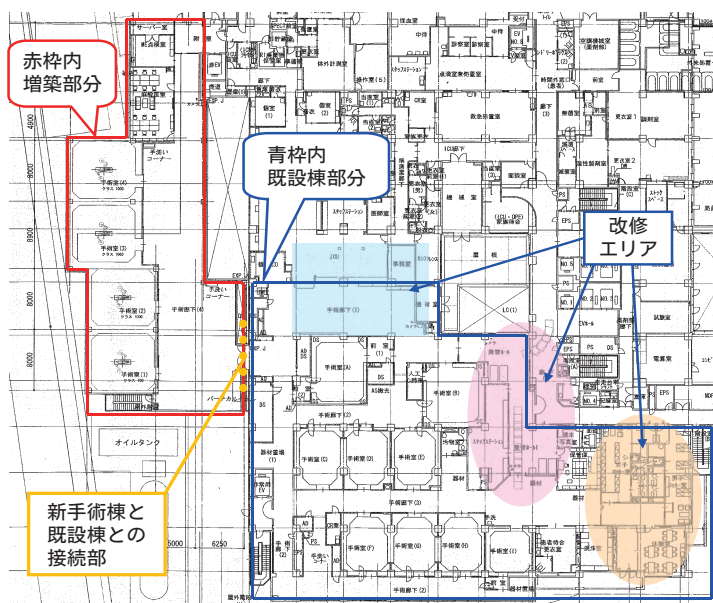


●略歴
昭和52年 大阪大学医学部卒
昭和59年 大阪大学医学部整形外科助手
平成12年 大阪大学医学部整形外科助教授
平成18年 関西労災病院整形外科部長
平成21年 関西労災病院副院長、整形外科部長、スポーツ整形外科部長、中央手術部長
平成22年 リハビリ科部長(兼務)
現在に至る

●資格
昭和62年 日本整形外科学会専門医
平成3年 医学博士(大阪大学)
平成21年 日本整形外科学会
運動器リハビリテーション医

関西労災病院では、1991年より開始した増改築工事第Ⅰ期竣工(1996年12月)後、手術室9室、手術枱8列として運用してきましたが、近年増加し続ける手術症例数に対応しきれない状態(入院待機患者総数822人中、手術待機患者は569人、約70%)となっており、緊急手術にも対応するべく2008年に増改築計画の具体的な検討を開始しました。まず、4通りの設計案が検討され、2009年12月に最終案が手術室増改築計画として承認される運びとなり、2010年に設計図面の完成、工事手順の設定などを経て8月に起工し、この度、2011年3月をもって竣工を迎えましたので、今回の手術室増改築計画の概要についてご報告させていただきます。

(図)



まず、病院西側駐輪場部分に新手術棟(3階建て: 1階部分は駐輪場、2階部分が手術室、3階部分は機械室)を建設し完成したのち既設手術部と接続します(図)。この新手術棟には十分に広い汎用手術室が4室建造され、そのうち1室はバイオクリーンルーム(class100)、1室は準バイオクリーンルーム(class1000)、そして2室(class1000)は増加する内視鏡手術などにも対応した手術室になります。いずれも約80㎡(既設の手術室は約55㎡)の広さで、大電力・新型无影灯・モニター装備の近未来の手術テクノロジーの進歩に対応した設備とし、また広く快適な麻酔科医室も設置されます。そして旧手術部の限られた床面積の中で「一足制の導入」、「患者・スタッフ・物の動線効率化」をコンセプトにしたリニューアル設計を行い、手術室出入り口の変更(手術室の出入り口動線を直線的に変更することによる効率の向上)、ロッカールームやスタッフルームのスペース倍増が実現します。手術部で使用される多数の手術機器の格納方法の改革などによっても新たなスペースが確保されるようになりました。また、本計画と平行して手術部のソフト部門の充実も図りつつあります。幸い当院では麻酔科の協力の下、麻酔科医は増員されつつあり、手術室13室体制の下、手術枱の一層の充実を図り、手術待機期間の短縮を推し進めることはもちろん、より効率的な緊急手術への対応も可能になると期待されることです。

新手術棟増築工事の推移

上段左から

平成22年 8月着工
9月掘削調査
10月基礎工事
11月躯体工事着工



下段左から

12月外壁工事
平成23年 1月内壁床面工事
2月外装仕上げ
3月竣工



新手術室の特徴について

脳神経外科部長
瀧 琢 有



- 略歴
昭和58年 山口大学医学部卒
大阪大学医学部附属病院
平成 8 年 関西労災病院脳神経外科副部長
平成16年 関西労災病院脳神経外科部長
大阪大学医学部臨床教授
現在に至る
- 資格
平成 1 年 日本脳神経外科学会専門医
平成 9 年 医学博士(大阪大学)
平成20年 日本脳卒中学会専門医
平成22年 日本がん治療認定医機構
がん治療認定医

近年医療分野においてはEBM (Evidence Based Medicine)やPersonalized Medicineなどをコンセプトした効率的に有効な医療がすすめられてきました。このような考えは正しいのですが、ともすれば働く者にとっては窮屈な環境をつくってしまう恐れがあります。今回、新手術棟(一部改築を含む)を構築するにあたっては、手術スタッフにとって働きやすいストレスフリーな環境を整えることを第一に考えました。特に精神的快適性は重要との認識を中心にすえました。

先進的でありながら開放的、明るい空間および日本人の文化的背景にも配慮したものを用意しました。

開放的手術棟：可能な限り広い手術室および廊下を用意しました。突起物を抑制し、倉庫などの小部屋を排除し精神的圧迫感の除去に努めました。総面積からは6室の手術室が配置できるところを、あえて広々とした8m四方の手術室4室と廊下になっています。手術室壁面には突起物を抑制しながらflexibleな変更が可能なアルコープシステム(Central Uni社)を採用しています。

明るく快適な空間：法令上日本では窓の設置には制限がありますが、廊下から外の景色が見える設計、各手術室ドアには大きな窓を設定、麻酔医室にも窓を用意し、時間の経過がわかる配慮をしています。一方、配色は斬新な群青色の壁面として、落ち着いた引き締まった印象をねらっています。さらに、logisticsを考慮して一方向性(入口と出口を分離)の動線を確保しています。



新手術棟の廊下

文化的配慮：最近の手術室は欧米の靴文化、EBMに基づいた1足制が導入されています。しかし日本は未だ畳の文化が色濃く残っており、手術棟も1足および2足制の混合案を採用しました。更衣室は素足で、手術室内は専用の内履きあるいは各自の院内履きにシューズカバーをかけて入室する様に設定されています。

先進的手術室内装備：可能な限り床をコード類が走ることを回避した装備を考慮しました。手術室空間に配置されるシーリングペンダントには全く違ったコンセプトを有する2機種を用意しました。一つは従来のペンダントではその可動制、快適性から最も秀逸であると判断されたMaquet社製のものを用意しました。



Maquet社製シーリングペンダントシステムの手術室

他方は手術ベッド直上に固定された筐体を有するアジア初導入のOPERA System(Dräger社)です。両者ともバイオクリーンレベルの清潔空間を確保しつつストレスコントロールされた照明環境のもとでflexibleに多種類の手術に対応可能なuniversal operation theaterに仕上がっています。さらにペンダントに設置されたディスプレイには多種類の画像、患者情報が提供される方式を採用し、術者には必要な情報をreal timeに手術進行を妨げることなく手にできる環境が用意されています。



ドレーゲル社製のオペラシステムの手術室

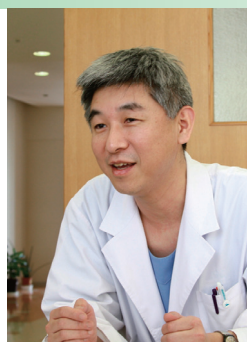
前方・後方支援を含むOperation A teamがその能力を遺憾なく発揮できる様な環境のもとで、さらに良質な医療サービスが提供できることを期待しています。

新手術室運用にあたって

麻酔科部長

上山 博史

現在、当院では年間約7,000件の手術を行っていますが、今回の増室により1～2年以内に年間8,000例に達すると予想されます。手術は、食事を作るのと同様に、材料を購入・保管し、準備することから始まります。手術終了後も、後片付け、すなわち機材の搬出、清掃、機器の洗浄滅菌が必要です。手術室は病院で購入する資材の2/3を消費しますが、手術件数の増加は、物品管理と準備・後片付け業務の増加を意味します。現在の病院は14年前に建設され、同時に手術室も設備を一新して運用を開始しました。しかし、新たな手術



●略歴

昭和58年 金沢医科大学卒
大阪大学医学部付属病院
平成4年 大阪大学医学部麻酔科助手
平成17年 大阪大学医学部麻酔科講師
平成19年 関西労災病院第二麻酔科部長
平成20年 関西労災病院麻酔科部長
現在に至る

●資格

昭和61年 麻酔科標榜医
平成1年 日本麻酔科学会麻酔科指導医
平成12年 医学博士(大阪大学)

技術の導入に追われるあまり、非効率的な運用が目につくようになりました。そこで、今回の増室を機に、看護師や麻酔科医の省力化と同時に経済的な手術室運営を行うため、①電子化による事務作業の効率化、②手術用機器の共通化、③物流システムの導入、④早朝・夜間の要員の充実、を図りました。新たな手術室はわが国でも有数の設備を誇りますが、このように運用についても他の施設のお手本となることを目標にしています。

手術室における 看護師の役割について

看護部長

田中 一美

皆様こんにちは、看護部長の田中でございます。平素より当看護部の活動にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、このたび手術室増築工事が無事竣工を迎えました。新しい手術室は機能・構造ともに充実したものとなりました。特に作業環境が広がったことで、器械の準備、展開が容易となり手術の安全性が高まりました。また、電子カルテを導入したことで患者様の情報の共有や集約が迅速に行えるようになるなど、患者様の安全確保と医療者の快適な作業環境が大きく改善されました。

ご承知の通り、手術室における看護師の役割は、術者の介助としての『器械出し』と、手術を成功に導くた



●略歴

昭和53年 大阪労災病院入職
平成3年 同院 看護婦長
平成12年 同院 看護専門学校専任教員
平成16年 同院 医療安全管理者
平成17年 同院 看護副部長
平成19年 門司労災病院看護部長
平成21年 関西労災病院看護部長
現在に至る

●資格

平成22年 日本看護協会認定看護管理者

めの環境調整と患者擁護に努める『外回り』があります。その役割は今後も大きく変わるものではありませんが、新手術室の竣工を機にさらなる業務の見直しと拡充に取り組む所存です。また、手術室の看護師の使命は、物言えぬ患者様の命を守ることと、患者様の術後の生活を守ることにあると考えます。これは「人々の生命と生活を大切にする」という私どもの理念に合うものです。今日まで構築してきました周手術期の看護の知識と技術を行動化し、手術室看護の質向上に努めて参ります。

関係の皆様には、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



イメージキャラクター
かんろっこ

連携通信特別号 平成23年 4月



独立行政法人 労働者健康福祉機構

関西労災病院

〒660-8511 尼崎市稲葉荘3丁目1番69号

TEL 06-6416-1221 FAX 06-6419-1870(代表)

URL <http://www.kanrou.net>

発行人 林 紀夫 編集人 堤 圭介

地域医療室

受付時間 月曜日～金曜日 8時15分から19時
(土曜日・祝祭日は業務していません)

TEL 06-6416-1785(直通)/06-6416-1221(内線7080)

FAX 06-6416-8016(直通)